



—東地中海地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：米・イスラエル・パレスチナ三者首脳会談

(9月23日付現地各紙)

23日付アル・クドゥス紙はじめ現地各紙は、ニューヨークで開催された三者会談について報じている。概要は以下の通りである。

1. 9月22日、オバマ米大統領はニューヨークでアッバース・PA大統領、ネタニヤフ・イスラエル首相との三者会談を開催した。同会談は、オバマ大統領の国連総会での演説の前日に行われ、オバマ大統領が双方の肩に手を置く中、アッバース大統領とネタニヤフ首相は握手を交わした。ニューヨークでの同会談は、3月のネタニヤフ首相就任以降、アッバース及びネタニヤフ両首脳による初の会談である。
2. オバマ大統領の発言（骨子）
 - (1) 米国の和平へのコミットメントを確認すると共に、目的達成のために柔軟性を示す時である。イスラエルは、パレスチナ領内での入植活動の制限に関して、口先だけでなく実行に移すべき（但し、イスラエルによるパレスチナ人の移動の制限の緩和にも言及）。イスラエルに対して、入植活動拡大の活動を求めると共に、全当事者に和平プロセスを円滑ならしめるための措置を取るよう求める。
 - (2) PAは、(パレスチナ自治区の)治安を改善させている。和平交渉に対する扇動を阻止し、更に治安状況を改善させるべき。
 - (3) 二国家解決策を進める為に圧力をかけてゆく。又、アラブ諸国に対しては、和平プロセスを円滑ならしめるよう、イスラエルとの関係正常化措置を取るよう求める。
3. アッバース大統領の発言（骨子）
 - (1) イスラエルに対して、東エルサレムを含む入植活動の停止を要求する。
 - (2) イスラエルは、境界線及びエルサレムに関する2008年の合意を尊重すべきであり、又、1967年境界線からの撤退、及び占領の終了を明確に承認するよう求める。
 - (3) ロードマップの履行に関するコミットメントの履行を求める。
 - (4) 交渉再開は、1967年6月4日の境界線からの撤退及び占領終了を基本とすることを交渉プロセスで明記出来るか否かにかかっている。
4. ミッチェル米特使の発言（骨子）
 - (1) パレスチナ・イスラエル間の交渉再開の必要性を確認し、米が橋渡ししているイスラエル・パレスチナ双方の溝は依然として深い。
 - (2) 入植活動の凍結に関して合意に至っておらず、本問題についてイスラエルと協議を続けていく。